



松柏中学校アーカイブ通信 第7号 2024年5月27日発行

きらめきタイム「アーカイブコース」責任者：山村 好克
(タイトルの背景は旧校舎)

松柏中の「正門」の謎が解明！

通信の発行を通して、地域の方々や生徒の保護者の皆様などから松柏中に関する貴重な写真や情報を提供していただいています。また、「のんびりとした時代だった」頃のエピソードもちらほらお寄せいただいています。寄せられた情報の中で、通信第4号（5月7日発行）で触れた「正門」の謎が解明されました。



左の写真は、1978年の「正門」の様子です。今の「西門」から生徒が下校する様子を撮ったものです。「正門」の間口は狭いのですが、コンクリートの柱には「松柏中学校」と入っています。1980年9月に、今の本館が校地の北側に建ったことで、玄関が校舎北になりました。体育館やプールとともに、主要な施設が南から北に移動し、「正門」が現在の体育館前に移動したと考えられます。それでは、旧校舎時代（1953～1980年）、千丈方面からの通学生はどこを門をくぐっていたかという謎です。通信第4号で紹介した航空写真では、東側に門らしきものは見えず、校内と校外との区切りの塀らしきものも確認することができません。



この次の時代の写真が左です。1968年に体育館が完成します。西校舎や旧本館から体育館への移動のため、屋根付きの渡り廊下が確認できます。どうやら、これをもって、校内と校外の仕切りとしたようです。

この件に関して、生徒の祖父に当たる方から情報を寄せていただきました。一番上の写真をご覧ください。文章は原文のまま紹介します。「千丈方面（体育館）より旧本館を望む。旧本館と体育館は屋

根付きの渡り廊下で結ばれていました。門の名称については記憶にありません。よって、体育館ができて、渡り廊下の途中に、一段高い屋根の部分があり、それを門と呼んでいたようです。（千丈門？）未だ周辺の塀などは未整備です。」



いかかでしょうか。渡り廊下は雨ざらしの状態、今の本館と西校舎とを結ぶような構造だったと言えます。15日の「アーカイブコース」の時間、この写真を生徒たちと分析しました。一段高いのは、（門としての）アクセントとともに、車が通るためだったからではないかという推測が出てきました。それも普通自動車ではなく、給食を運んでくるトラックなどの車高や車幅を考慮してです。分かりにくいのですが、左の写真は体育科の授業を行っている1978年のものです。写真の右奥に渡り廊下の中で、ひときわ高い「千丈門」が確認できます。

次回は旧校舎の間取り情報などを紹介していきます。

松柏中学校に関する情報の提供をお願いします。特に旧校舎の間取り情報、個人所有の写真など
○ 電話をしていただければ、御自宅まで受け取りに伺います。松柏中 22-1208